【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成24年6月7日(2012.6.7)

【公表番号】特表2011-523318(P2011-523318A)
【公表日】平成23年8月4日(2011.8.4)
【年通号数】公開・登録公報2011-031
【出願番号】特願2011-513063(P2011-513063)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｌ　27/34　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｌ　27/00　　Ｅ

【手続補正書】
【提出日】平成24年4月19日(2012.4.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
シンボルコンステレーションを、符号化率の関数として非均一なシンボルコンステレーションまたは均一なシンボルコンステレーションとなるように適応させるステップと、
前記適応したシンボルコンステレーションに従って、伝送用の信号を直交振幅変調（ＱＡＭ）するステップと、を備え、
前記適応させるステップは、
選択された符号化率を閾値と比較するステップであって、前記閾値は選択されたＱＡＭ変調方式に関連し、前記ＱＡＭ変調方式は関連シンボルコンステレーションを有する、ステップと、
前記比較が前記閾値以上である場合に、前記関連シンボルコンステレーションを非均一となるように適応させるステップと、
そうではなく前記比較が前記閾値より小さい場合に、前記関連シンボルコンステレーションを均一となるように適応させるステップと、
を有する、前記方法。
【請求項２】
前記符号化率は、１／４、１／３、２／５、１／２、３／５、２／３、３／４、４／５、５／６、８／９および９／１０のいずれかであり、前記シンボルコンステレーションはｍ－ＱＡＭのサイズを有し、ｍは１より大きい整数である請求項１に記載の方法。
【請求項３】
２５６－ＱＡＭおよび１０２４－ＱＡＭのうち少なくとも１つに対して、前記閾値は８／９である請求項１に記載の方法。
【請求項４】
関連符号化率を有する符号化データを提供する前方向誤り訂正符号化器と、
シンボルコンステレーションを、前記関連符号化率の関数として非均一なシンボルコンステレーションまたは均一なシンボルコンステレーションとなるように適応させ、かつ、伝送のために、前記適応したシンボルコンステレーションに従って、前記符号化データを変調する直交振幅変調器と、を備え、
前記直交振幅変調器は、前記関連符号化率が閾値以上である場合に、前記シンボルコンステレーションを非均一となるように適応させ、そうではなく比較が前記閾値より小さい

場合に、前記シンボルコンステレーションを均一となるように適応させる、前記装置。
【請求項５】
前記前方向誤り訂正符号化器は低密度パリティ検査符号器であり、前記関連符号化率は１／４、１／３、２／５、１／２、３／５、２／３、３／４、４／５、５／６、８／９および９／１０のいずれかであり、前記シンボルコンステレーションはｍ－ＱＡＭのサイズを有し、ｍは１より大きい整数である請求項４に記載の装置。
【請求項６】
前記関連符号化率が前記閾値以上であるかどうかを判定し、かつ、前記直交振幅変調器によって前記シンボルコンステレーションの適応を制御するプロセッサをさらに備える請求項４に記載の装置。